今日のイラスト 608　「 イラストでたどる石州街道⑮ 文殊堂 」　　古谷眞之助

イラストでたどる
石州街道 15 文殊堂

馬頭観音から約1キロも下って行くと左手の小高い丘の上に文殊堂が見えて来る。「防長寺社由来」には「篠目の庄屋、施主吉賀十郎兵衛の先祖、先年深田より掘り出し、威霊の印有り、深田文殊と申し伝え云々」と書かれている。文殊堂に祀られている文殊菩薩は釈迦の弟子随一の知恵者で、全国的に受験生の参拝が多いそうだが、ここもそうなのだろうか。階段下には1700年代に建立された延命地蔵、猿田彦大神、廻国塔もあり、境内の桜の大樹は春には見事に咲き誇るという。

昭和13年（1938）、行政区変更に伴い、板見堂、大江河内、林の三地区が合併した際には、この文殊堂に因んで「文殊」の新地区名が採用されたと言われている。

文・イラスト＝古谷眞之助

山登りをやっているせいで、「文殊堂」というと、昨年春に登った周防大島の文珠山（662m）が一番に思い出される。そこの中腹には立派な岩屋の文珠堂があって、その由来書きがあった。少し長くなるが、以下に引用してみよう。「大同元年（806 年）、弘法大師が唐からの帰途、瀬戸内海で難航し、『三浦の流』に上陸、この地に文珠菩薩を刻まれて当堂を建立されたと伝わる。日本三大文珠は大和国・阿部の文珠、丹後国・切戸の文珠、そして周防国のこの岩屋の文珠である。三人寄れば文珠の知恵、という言葉があるように、文珠菩薩は知恵の神様である。学問や知識の『知』だけでなく、人間としての徳を高め、精神を磨いて受け入れられる「智」を目指すべきである。そのためには仏様の無限の智慧をいただくようにお願いして拝むことである」となかなか有難いことが書いてあった。登ったのが受験期ではなかったからか、それらしき登山者には出会わなかった。道は狭いが、車で行けるから受験生をお持ちの方には一応勧めておきたい。頼みに来る人が少なければ、それだけ霊験あらたかなはずである。県内一の防府天満宮などゴマンの受験生やその親が訪れるから、どうしてもご利益は薄くなると思うのだが。

肝心の篠目の文殊堂について言うならば、正直なところ本文に書いたこと以上には書くネタはない。これは勉強不足のせいもあって、まだまだ石州街道全般に対する知識不足のためである。それに山口県教育委員会の「歴史の道調査報告書『石州街道』」に記されている内容も、上掲の解説文と大同小異である。本当は地域の郷土史家などに聞くのが一番良いと思うが、生憎人的つながりがなく残念である。（2023.7.1 記）